

第55回 医学教育セミナーとワークショップ

開催要項・参加者募集

医学教育開発研究センターは、新しい医学教育の開発と普及を目的とした“医学教育セミナーとワークショップ”を毎年4回開催し、全国から多くのご参加をいただいております。

第55回医学教育セミナーとワークショップは、医学教育開発研究センターの拠点事業である「多職種連携医療教育共同開発事業」の最終報告会でもあり、多職種連携医療教育について考える2日間となっております。奮ってご参加ください。

岐阜大学医学教育開発研究センター 鈴木康之

日程 2015年1月31日(土)～2月1日(日)

会場 岐阜大学サテライトキャンパス (JR岐阜駅前)

2015

冬

シンポジウム “多職種連携”が発揮できる教育をめざして

— 4年間の事業成果と今後の課題 —

WS-1 複雑性の視点で多職種での事例検討を振り返る

WS-2 大教室&半日で実施可能！

Team-based learning (TBL) を活用した

Interprofessional education (IPE)

WS-3 多職種連携教育の研究計画を洗練させる

2日間を通じ、多職種連携医療教育共同開発事業の6施設
(名古屋大学/昭和大学/地域医療振興協会/広島大学/筑波大学/岐阜大学)
の成果報告の展示も行っております。

プログラム				
1月31日(土)	午後	シンポジウム		
	夜	懇親会		
2月 1日(日)	午前	WS-1	WS-2	WS-3

シンポジウム “多職種連携”が発揮できる教育をめざして－4年間の事業成果と今後の課題－

日時： 1月31日(土)13:00-17:30

概要： 医療の現場における“多職種連携”は、医療専門職業人にとって今日では必須の知識と能力となってきています。近年国内においては臨床現場では多職種連携の研修、また卒前教育では多職種連携に関連した授業など、“多職種連携”の能力を向上させるためにさまざまな取り組みがなされるようになってきました。そして卒前と卒後、それぞれでの実践や研究が進んできており、その成果が多く発表されるようになりました。医療系学生の多職種連携力を卒前-卒後を通じて養っていくためには、われわれはどのようなことができるか、その方法につながるヒントを探るべくシンポジウムの参加者とともに考えたいと思います。

今回は、卒前、卒後で活躍するシンポジストにそれぞれの実践について話していただき、参加者全員によるグループワークによって、さらにテーマについて深めていきます。

なお、医学教育開発研究センターでは、2010年度～2014年度にわたり多職種連携医療教育共同開発事業を、筑波大学、名古屋大学、広島大学、昭和大学、地域医療振興協会の5施設とともに実施してきました。今年度は最終年度にあたり、今回の医学教育セミナー＆ワークショップは、4年間の集大成である最終成果報告会とさせていただきます。

対象： 多職種連携医療教育に関心がある方（定員100名）

プログラム： 13:00 開会

13:05 シンポジスト発表

- ① 鈴木 英雄（筑波大学 医学群医学教育企画評価室）
「筑波大学での多職種連携教育の取り組み – problems&solutions –」
- ② 阿部 恵子（名古屋大学大学院医学系研究科 地域医療教育学講座）
「名古屋大学における継続的多職種連携教育の試み
：iPEGから模擬患者参加型IPE・患者参加型IPEへの段階的プログラムの構築」
- ③ 今福 輪太郎（岐阜大学 医学教育開発研究センター）
「岐阜大学における多職種連携教育の取り組み – IPE学生セミナーの開催から正規授業での実現に至るまで –」
- ④ 長谷 由紀子（広島大学大学院 医歯薬保健学研究科）
「劇場型『多職種連携口腔衛生管理』のための教育プログラムの開発」
- ⑤ 下司 映一（昭和大学 保健医療学部教育推進室）
「昭和大学での多職種連携医療教育の取り組み」
- ⑥ Mary Lee（タフツ大学医学部・タフツメディカルセンター 教育改革特別顧問／東京大学 医学教育国際研究センター）
「Challenges of undergraduate interprofessional education : the Tufts experience」
(卒前教育で多職種連携をどう教えるか：タフツ大学の取り組み)
- ⑦ 吉村 学（地域医療振興協会 揖斐郡北西部地域医療センター）
「ごちゃまぜIPE ～5年間の取組報告と今後の可能性～」
- ⑧ 古屋 聡（山梨市立牧丘病院）
「お口から連携へ」
- ⑨ 市橋 亮一（総合在宅医療クリニック）
「総合在宅医療クリニックでの多職種連携医療の取り組み」

14:50 休憩・展示見学

15:20 グループワーク

16:30 全体交流会

17:30 閉会



WS-1 複雑性の視点で多職種での事例検討を振り返る

企画： 春田淳志・飯岡緒美（東京大学）、小島 愛（王子生協病院）、後藤道子・吉田和枝・森 洋平（三重大学）、吉見憲二（早稲田大学）、吉本 尚（筑波大学）

日時： 2月1日(日)9:00-12:30

概要： 多職種での事例検討は、事例の複雑さの違いによりどこを目標にするかが変わるため、参加している専門職は適宜視点を変える必要がある。本WSでは、複雑性の異なる事例検討を多職種で実体験し、その後に振り返ることで「複雑性」という視点で多職種連携のグループダイナミクスを円滑に進めるファシリテーターの役割を理解することが目的である。なお、本WSは研究の一環として行われるため、事前に研究説明等をする予定である。

対象： 指導医、指導医と関わる研修部門のスタッフ、臨床研修や臨床実習に関心がある医療従事者（定員40名）

WS-2 大教室&半日で実施可能！

Team-based learning (TBL) を活用した Interprofessional education (IPE)

企画： 前野貴美・鈴木英雄・稲田晴彦・堤 円香（筑波大学）、富田美加（茨城県立医療大学）

日時： 2月1日(日)9:00-12:30

概要： 専門職連携教育Interprofessional education (IPE) の重要性が強調されるようになっていきます。今回、卒前教育において大教室を使って半日でできるTeam-based learning (TBL) を用いたIPEを紹介します。TBLは、講義のメリット（大規模なクラスを少数の教員で運営できる／教員の専門性を活かせる）と少人数グループ学習のメリット（能動的・協調的な学習を促す）とを併せ持った学習方略です。WSではIPE、TBLについて理解を深めた上で、筑波大学・茨城県立医療大学が合同で実施しているプログラムの一部を実際に体験していただきます。その後、シナリオ作成や運営の工夫などについても共有したいと思います。

対象： 医療専門職の卒前教育、専門職連携教育に関心のある方（定員30名）

WS-3 多職種連携教育の研究計画を洗練させる

企画： 鈴木康之・西城卓也・今福輪太郎・Phillip Evans (MEDC)、片岡竜太（昭和大学）

日時： 2月1日(日)8:45-12:30

概要： チームによる包括的な患者中心医療の実践が重要視され、多職種連携教育 (IPE) を卒前・卒後教育へ導入する事例が多く報告されています。それに伴い、IPEでの学習プロセスや教育効果の解明が必要になるといえます。本ワークショップでは、IPE研究を始めようとする方を対象に、文献検索やリサーチエスチョンを立てるプロセス、また研究アプローチの基本を共に学び、その後、各自で研究計画を立てるワークを行います。最後に、研究計画の進捗状況を各自発表し、そこで生まれた疑問や難しいと感じた点を全員でディスカッションしたいと思います。

対象： これから新たにIPEのリサーチを始めようとしている方（定員10名）

53th IPEで利用できる映像教材のシナリオを考える



46th 多職種連携教育(IPE) – 最新の実践報告と交流

49th 多職種連携医療教育の
“一粒で二度美味しい”シナリオづくり

参加登録方法

事前登録制です。インターネットから直接お申し込みください。
「MEDC」で簡単検索できます。

締め切り：2015年 1月18日(日)

ホームページからお申し込みできない方は、お電話（058-230-6470）にてご連絡ください。
ワークショップ運営上、各々定員を設けております。
申し込み多数の場合、ご参加いただけないこともあります。ご了承ください。

参加費： 2,000円（資料代） 学部学生無料

懇親会費： 4,000円

参加費・懇親会費は、受付時に徴収いたします。
資料代は、資料ならびに報告書「新しい医学教育の流れ」の作成等に使用いたします。
参加者には後日、報告書を送付いたします。（学部学生には報告書の送付はありません）

会場： 岐阜大学サテライトキャンパス

（〒500-8844 岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウイング37 東棟4階）



JR岐阜駅から徒歩5分、名鉄岐阜駅から徒歩7分

** JR岐阜駅2階周辺歩行者用デッキから直結しています **